

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 1月2日は、低気圧がオホーツク海へ進み、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。
- 3日は、大陸の高気圧が日本の南へ張り出し、冬型の気圧配置は次第に緩む。
- 4日は、気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む。
- 5日は、気圧の谷が日本の東へ進み、6日にかけて日本付近は再び冬型の気圧配置となる。

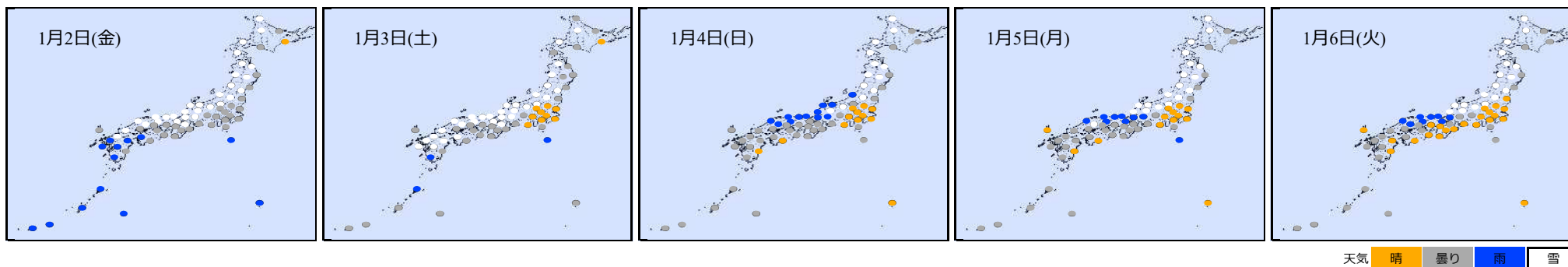
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 1月3日にかけて、日本付近は冬型の気圧配置が続くため、北日本から西日本にかけての日本海側では荒れた天気となり、冬型の気圧配置の強まりの程度によっては、警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

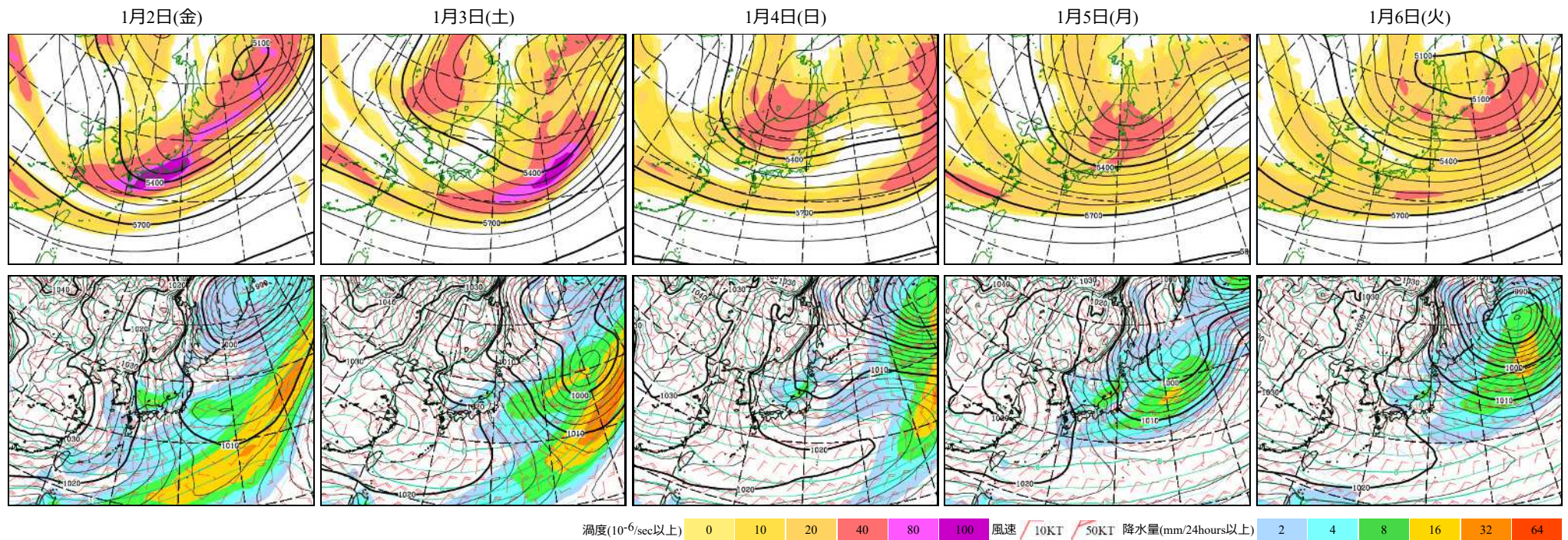
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

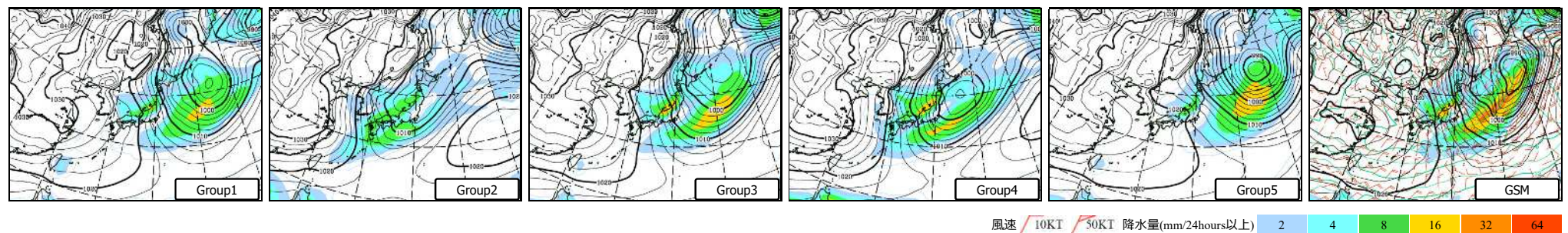


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れる日が多いが雪または雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、2日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月5日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、2日から3日に日本付近を通過する深いトラフの東進が早まり、3日後半には冬型の気圧配置が緩む予想になった。また、5日は日本付近へ進むトラフが深くなり、寒気の南下が強まったため、西日本の降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、5日にかけての予想はおおむね揃っている。6日については、初期値変わりやモデル間の差が大きく、ENSとGSMは冬型の気圧配置が続く一方、海外モデルは日本海に気圧の谷を予想している。
- スプレッドは、期間の後半は大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。